

核兵器廃絶オンラインワークショップ 原子爆弾投下から80年、第二次世界大戦終結、そして国連設立を記念して

広島・長崎への原爆投下、第二次世界大戦の終結、国連とルールに基づく多国間秩序の確立から80周年を記念して、アジア宗教者平和会議（ACRP）の後援のもと、WCRP日本委員会、同オーストラリア委員会、同ニュージーランド委員会が共同して本ワークショップを開催する。核兵器被害の過去と継続する影響を記憶し、増大する核兵器の危険性に対する認識を高め、宗教的、精神的、道徳的な対応を促進する。

主催

世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会、同オーストラリア委員会、同ニュージーランド委員会、アジア宗教者平和会議（ACRP）

日時とテーマ

第1日目：2025年 8月 3日（日）15時～18時（日本時間）
「核兵器および核実験の被害者」

第2日目：2025年 8月 10日（日）15時～18時（日本時間）
「核戦争の脅威に対する宗教の応答」



使用言語 英語（日英の同時通訳あり）

お申込み <https://us02web.zoom.us/meeting/register/9wo10mYFRLaPU-DBMNbihw>

お問合せ（公財）世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会
TEL: 03-3384-2337 FAX: 03-3383-7993
EMAIL: rfpj-info@wcrp.or.jp



8/3 (白) 「核兵器および核実験の被害者」

15:00-15:15 開会の祈り
15:15-16:00 原爆の被害者とその影響についての教育と認識についてのセッション

1945年8月の原爆投下による人類と環境への壊滅的な影響について紹介する。被害を受けた人々の体験をもとに、オーストラリアと太平洋諸島における核実験についても探求する。また原爆投下と核実験の背景について、放射線被曝の長期的な影響という観点から、日本やアジア太平洋地域全体の被害について考察する。原子力時代における核兵器の増加に焦点を当て、国連とともに、20世紀の世界大戦の後における恒久平和への希望と歩みについて議論する。

パネル1
日本、オーストラリア、太平洋地域から核兵器と核実験の犠牲者による証言

16:00-16:30 振り返りの時間

16:30-17:30 パネル2
犠牲者の記憶とメッセージの世代間継承を図る
・日本、オーストラリア、太平洋地域から高校生による発言
・レンツ・アルガオ博士ACRP青年ネットワークコーディネーター

17:30-18:00 振り返りの時間と祈り

8/10 (日) 「核戦争の脅威に対する宗教の応答」

15:00-15:15 開会の祈り
15:15-16:15 アジア太平洋地域における現代の核エスカレーションと脅威の高まりへの認識についてのセッション

広島・長崎への原爆投下後、世界の終末時計は1947年当初の午前0時7分にを指し示していた。その後一進一退し、2025年1月には人類の全滅まであと89秒と発表された。本セッションでは、核兵器を保有する7カ国の間で核兵器使用の脅威が高まっている中、アジア太平洋地域で核兵器を保有する4カ国に焦点を当て、核保有国間の緊張の高まりの認識を深める。

パネル3

鈴木達治郎博士 (長崎大学客員教授、NPO法人「ピースデポ」代表)

Dr. Tong Zhao (Senior fellow in the Nuclear Policy Program at the Carnegie Endowment for International Peace)

Dr. Maria Rost Rublee (Associate Professor, Politics and International Relations, Faculty of Arts, Monash University)

16:15-16:40 振り返りの時間
16:45-17:45 エスカレートする核戦争の脅威に対応する宗教者の対応についてのセッション

高まる戦争の脅威、特に核使用に対する宗教指導者とコミュニティの役割について考える。宗教と先住民族コミュニティが平和運動や軍縮において果たしてきた役割を振り返り、今後の必要とされる行動について学び合う。

パネル4

仏教、キリスト教、ムスリム、ヒンズー教、先住民族の宗教者によるディスカッション

17:45-18:00 振り返りと祈り
18:00 終了